

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月2日(水)

会場:三次コミュニティセンター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>三次町は、三次中学校が避難所に指定されているが、旧尾関山駅の方が高い場所にあり、ホームもあり、広い。そこに備蓄倉庫や多目的ホールのようなものがないか。畳の部屋があり、避難所や行楽の施設、駐車場としても使えるような施設を作ってはどうか提案する。</p>	<p>旧三江線の鉄道資産の利活用について、旧三江線鉄道資産の検討委員会を設置し、色々な意見をいただいた。旧尾関山駅周辺については、三次町の新たな町歩きのポイントの一つとして、地域活性化や観光振興に資するという形で活用してはどうかとの提案をいただき、市として、3月にJRに申し入れ、6月に資産の譲渡を受けた。SLやホームやトンネル等の鉄道資産を活かした地域活性化に資するような活用ができないか検討を進めている。</p>	
<p>昨年の市政懇談会で、避難所のトイレの問題を指摘されたが、総務部が回答した。防災組織は総務部だけでなく教育委員会にも関係していると思うが、市の考えを伺う。広島市安佐北区では、校長が不在で鍵が開かず、避難所が機能しなかったという話を聞いた。地元で校長先生がおられる方が良いのではないかと思う。</p>	<p>・三次地区については、警戒レベル3が出た時には、まず、基幹避難所である三次中学校を開けることとしている。旧尾関山駅については、今のところ避難関係の施設としては指定されていないが、地域で決めていただく地域避難場所として指定し、一旦、身の安全を守る場所として活用することは支障はない。複合した機能については、別の問題になろうかと思う。</p> <p>・トイレについては、教育委員会としても、学校や担当課と連携して進めている。三次中学校では洋式トイレを3基設けた。基幹避難所については、今年から市で開設することとしている。教育委員会の職員も、災害対策本部の避難所班として、避難所の鍵を開けて避難をしてもらうよう対応している。</p>	
<p>国道375号線の、天野のガソリンスタンドと角谷接骨院の間が道幅は狭く、バスが同時には通れない。もう少し道幅が広がれば、バスがスムーズに通ることができると思う。</p>	<p>国道375号線は広島県の管轄であり、拡幅するとすると、すぐには答えることができないが、ご意見を広島県に伝える。</p>	
<p>現在ある、郷土資料館の資料を最低維持するために、移動させてでも整理してほしい。現在あるものをなるべく1カ所に集めて、鍵がかかり、調査をする学芸員がいるような、最低条件を備えたところに移して整理してほしい。現在、後から出てくる資料を教育委員会に持って行けば、受け取り、判断してもらえると常識が薄れている。効果として、三次の遺産の保存ができる、持ち込みされていない財産がわかるようになる、分散されている財産が集まる、立体効果がある、わが町にどのようなものがあるか認識してもらおう効果がある。空いている場所に物を移し、調査、データ化し、管理してほしい。</p>	<p>歴史民俗資料館は、三次及び周辺地域の歴史民俗、美術、産業、自然科学等に関する資料を収集、保管、展示し、郷土の歴史、文化に対する住民の知識を深めることを目的に昭和56年に開設された。他にも三次市では、三良坂の民俗資料館や吉舎の歴史民俗資料館、三和の郷土資料館と連携し、三次市内の様々な文化財、考古資料等を保管している。旧仁賀小学校にも考古資料を保管している。市内全域で管理している資料は主なもので、考古資料が10万点、民俗資料が8,600点、美術品等が1,000点、三次人形他が960点と膨大な資料がある。三次歴史民俗資料館では、三次人形や化石や岩石50点、ひな人形1,000点等も所蔵している。辻村寿三郎さんの人形についても、三次の歴史・文化を語るうえで欠かせないものである。課題は、施設が狭く、老朽化が進んでいることである。教育委員会では、資料を分散保管して、保管先で研究、調査している。三次歴史民俗資料館では、三次人形や雛人形の調査も行っている。現在は、正職員と専門職員含め、4人体制で調査、研究している。現在は寺町廃寺跡に注力しており、第7次の発掘調査を行っているが、並行して調査、研究している。今後は、今、預かっている資料の調査を優先し、整理された資料の展示を続けていきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月2日(水)

会 場:三次コミュニティセンター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>下電バスのツアーで、岡山県から23台のバスで1,100人が、もののけミュージアムに来たが、多くの人が訪れたのに三次町本通りには入る店があまりない。このツアー代金は4,000円であった。プラザホールで神楽があった。計画性が無いように思う。突然決まったわけではないので、プロジェクトを作って、三次町内の色々な人に声をかけ、幟や横断幕や食べ物を用意するなどおもてなしをすればよいと思う。あと2~3回ツアーがあるので、おもてなしをするようにお願いしたい。</p>	<p>9月23日にツアーを開催し、バス23台で967名の人々が三次に来られ、喜んでいただいた。このツアーは、官民が一体となった「やまなみルート観光協議会」で、三次にたくさんの観光客に来ていただくために、例年、県内、県外に営業に行くが、その成果として、下電バスにツアーを組むことを決定していただいた。協議会の中で、多くの方に三次を周遊してもらうための魅力的なルートを工夫したことも酌んでいただいたと思う。地元の方にも相談し、対応していただいた。たいへん喜んでいただいたという声も聞いているが、少し寂しかったという声も聞いている。三次町全体でおもてなしの機運がさらに高まればよいと感じている。</p>	
<p>三次中学校へ避難所を開設してもらったが、市からの情報提供が何も無い。危機管理課に電話をかけてもかからない。避難所に来ている職員が電話で聞くだけである。避難時の連絡方法を考えてほしい。テレビやラジオもない。</p>	<p>今年に入っても何回か三次中学校を基幹避難所として開設している。今年から基幹避難所は、市が責任を持って開設することとしている。ご意見のように三次中学校には、まだ、テレビ等を設置していない。今年度中には、順次、市内の全ての基幹避難所と補助避難所に、ピオネットとつないだテレビを設置することとしている。連絡方法については、基本的には職員が携帯電話で連絡ができれば、携帯電話を使う。難しければ、学校と連携し、職員室等の電話を応急的に使わせてもらうよう教育委員会と協議している。</p>	
<p>内水がはけないことに対して、川の中の土砂や木が多すぎる。祝橋の上では、シカやキツネが河川に生えている木の中にある。川の水が多く、内水がはけないことが第一の原因ではないか。災害に対して、もう少し真剣に考えてほしい。畠敷の方は、庄原の境の山の方からも水が流れて来るので、馬洗川の水が増えて内水がはけない。川を深く掘ってほしい。</p>	<p>国交省が三川合流部で浚せつを行っている。出水期が終わると、祝橋の方にかけて浚せつを行うと聞いている。その部分の土を取り除くことが一番効果的に水位を下げるということで、重点的に実施すると聞いている。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月2日(水)

会 場:三次コミュニティセンター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>高齢の女性の方が山の草を刈っていた際にイノシシの死骸が出てきた。処分できないので、市に電話したが、私有地なので市は関係ないと言われた。その方は業者を探して、4万円程支払って処理をされた。寺戸地区の河川敷の国交省の管理地に草が茂り、その中にイノシシがいる。市民のポストに投函したところ、国交省三次河川国道事務所から連絡があり、予算もかかるので、申し送りしておくと言われた。縦割り行政ではなく、国交省と三次市が連携が取れないのかとつくづく感じた。</p>	<p>・個人が所有されている山の中で死んでいたイノシシの処分方法について、市がそっけない対応をしたことを聞き、もう少し寄り添った対応ができなかったかと受け止めている。内部で確認したい。基本的には、田や山で鳥獣が死んでいるケースは多くあるが、ご協力をお願いしているのは事実である。高齢で一人暮らしで、持ち運びができない場合、もう少し丁寧な対応を考えないといけないと思う。</p> <p>・国土交通省をはじめとする関係機関との連携について、今後、さらに縦割り行政ではなく、横のつながりが課題であるということは認識している。国、県、市それぞれの役割を明確化して、防災、減災、国土強靱化について、3カ年緊急対策を実施している。国土交通省中国地方整備局の中の予算も昨年比べて、河川に対する予算額が2倍になっている。堆積土の除去等、河川の対策についての予算を付けていただいている。広島県でも河川に対する対策に対応していただいている。速やかな連携ということには、まだ十分ならないかもしれないが、課題を認識し、市民の方がたらい回しにならないよう、連携に取り組んでいきたい。</p>	
<p>・外国人の就労について、三次市で就労している外国人の人数を把握しているか。</p> <p>・未就学児童が社会問題になっているが、三次でそういったことがあるのか。</p>	<p>・外国人の就労者数について、7月31日現在で、技能実習生でカウントすると、292名の方が三次市に籍を置かれている。</p> <p>・海外から三次に来て就労されている方のお子さんについて、教育委員会で把握している方については、こちらで家庭を持たれている方がほとんどなので、それぞれの学校区へ就学案内し、勉強していただいている。日本語が十分理解できないお子さんについては、市の教育委員会から広島県の教育委員会へ日本語指導の非常勤講師を付けるよう申請し、決められた時間ではあるが、利用してもらっている。各学校にも支援員等も配置しているので、通常の学級の中でも支援している。</p>	
<p>文化財について、一般市民が持っている重要な資料について、もっと市が発掘するような努力をしてはどうかとの質問があったが、その回答をお願いしたい。</p>	<p>今後、三次市の文化財保護委員とも協議しながら、今後の方向性を検討していきたい。</p>	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月2日(水)

会 場:三次コミュニティセンター

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>グランラッセレ三次が12月31日で閉店する。商工会議所や市の担当部局と話をする、一企業に対して、できることに限度があると言われ、残す気があるのかとを感じる。無くなると、200人、300人規模の会議ができなくなるので困る。三次の基盤が落ちってしまう。やり方によっては残すことができると思う。準公共施設として使えるようにできないか。地域を活性化する一つの大事な場所だと思う。</p>	<p>グランラッセレ三次については、問題意識は市として十分認識している。これまでも、市としてできる営業や色々な所へ声掛けはしている。基本的なことを言えば、民と民の問題であり、民間と民間の取引等もあり、行政が中に入っていくのは難しい部分もある。三次のコンベンションとして、色々な機能を果たしていることは認識している。市としてできることを考えながら取り組んでいる。できる限りの努力をしたい。</p>	